

二〇一五年六月十二日 開催

国境の島の国際交流——朝鮮通信使を掘り起こした対馬市の試み

阿比留正臣

■ 講演者……阿比留正臣(対馬市観光交流商工課)
■ 司 会……林 史樹(本学アジア言語学科教授)

はじめに

皆さんは、対馬をご存知ですか？ 対馬は、縦八二キロ、横一八キロと約七〇〇平方キロの広さを誇り、日本の中では沖縄県を除いて、奄美大島、佐渡島に次ぐ三番目に大きな島です。博多など日本本土からの距離は一四〇キロ、一方韓国とは四九・五キロの距離で、釜山の夜景を肉眼で見ることができる、まさに国境の島です。

国際友好都市対馬

・ 航路

対馬の航路は、厳原港、比田勝港二箇所の港から、国内では博多とつながっており、韓国釜山への直行便もあります。

ですから、入国管理局、税関、検疫があり、これは沖縄県を除いて島では対馬だけです。島としては非常に大きなメリットです。

韓国との定期航路を最初に就航したのは韓国の大亜高速海運で、平成一一年七月のことです。平成二三年三月には、東日本震災の影響で運航が一時ストップしましたが、三ヶ月後の六月には運航を再開しています。また、平成二三年一〇月からは韓国でもJR九州高速ビートルが就航し、さらに一月には韓国未来高速のコビーが就航しました。高速船ジェットfoilでは対馬と釜山を約一時間でつなぎ、韓国の方は日帰りでも対馬に來ることができるようになりました。

対馬市に來ている韓国からの入国者数の推移を見ると、円安や教科書問題、東日本震災等の影響で浮き沈みがありながら六万七千人が訪れていたところ、平成二四年から急に激に一五万人にまで増えました。その後も徐々に増加傾向に

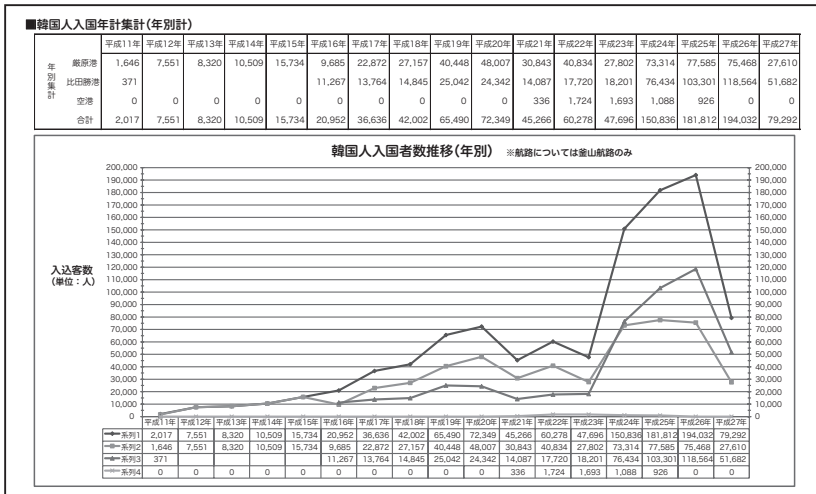


対馬市からみた釜山の夜景

あり、平成二六年は一九万人でしたが、セウォル号事件がなければ二〇万人を超えていたと思われる。日本全国に来る韓国人のうち六く七％の人が対馬に来ているというのは大きな特徴です。

・ 空路

空路は福岡・長崎ともに約三〇分です。つながっています。国際線としては、平成二一年七月からKEA（コリアエクスプレスエア）による韓国金浦空港と対馬間のプログラムチャーター



韓国入訪問者数の推移(平成27年度は4月までの集計)

ター便が就航していました。一時間でソウルまで行ける便でしたが、座席数が一九席と少なく、需要に比べられずに平成二五年七月でストップしてしまいました。しかし、平成二六年以降三六人乗りの小型機に変更し就航する計画が進んでいます。

・姉妹都市、友好都市

先述のような地理的特徴を持つ対馬は、昭和六一年には既に釜山市影島区と姉妹島縁組を締結していました(平成一六年に対馬市となり、翌年平成一七年に市として再締結)。行政セミナーの開催や、対馬の蕎麦打ち体験、登山などを通して交流を行っています。

また、平成一七年二月に蔚山市蔚州郡と「文化交流協力による意向書」を締結しました。蔚州郡は室町時代の朝鮮通信使である李藝(イ・イエ)氏の出身地でもあります。蔚州郡のお祭や音楽祭へ参加するなどして交流を深めています。

なお、中国とも平成二四年七月に、中国上海市崇明県と「友好関係覚書」を締結しましたが、尖閣諸島の問題に端を発する日中関係の冷え込みにより中国政府から崇明県に交流休止の命令があり、現在交流事業は休止状態となっています。

・対馬の国際交流三大祭り

韓国との交流事業が多いことは対馬の特色のひとつと言えます。ホームステイ事業や、サッカー・ラグビー・テニスと

いったスポーツを通しての交流、写真展の開催など多岐にわたりますが、中でもお祭り等のイベントは市民も多く参加し盛り上がりを見せるものです。

〈対馬厳原港まつり〉

対馬厳原港まつりは、昭和三九年から続く対馬最大の夏祭りです。昭和六三年からはサブタイトルに「対馬アリアン祭」を追加し、毎年、江戸時代に行われた朝鮮通信使行列を四〇〇人規模で再現してきました。日韓両国の要人も集まり、行列の再現では韓国の舞踊団や楽隊も華やかさを加えています。しかし、平成二五年は仏像盗難問題でサブタイトルを削除、また朝鮮通信使行列の再現も休止となりました。再開を予定した平成二六年も、悪天候のために行列再現は中止となりましたが、本年二七年は三年ぶりに再現される予定です。

〈国境マラソン大会〉

より国境に近い上対馬町で日韓のランナー約千人が参加するマラソン大会です。平成九年から開催しており、平成一三年四月には韓国の「慶州桜マラソン」と姉妹縁組締結をしました。

〈海道音楽祭(旧ちんぐ音楽祭)〉

日本と韓国の有名ミュージシャンによる合同音楽祭です。平成八年から毎年八月の最終日曜日に開催しています。平成二五年はやはり仏像盗難問題の影響で開催が不安定となり、

平成二六年度から海道音楽祭と名称を変更して再出発しました。

日韓の窓口

・国際交流員の活躍

これだけ韓国と日常的に接しているわけですから、対馬に常駐する韓国の方の協力が不可欠になっています。平成三年から美津島町等で国際交流員の招聘事業がスタートしました。平成八年からは、自治体国際化協会（CLAIR）のJETプログラムによる招聘が開始され、現在は韓国人二名を招聘中です。主な任務は、文書等の翻訳、イベント等での通訳業務、市民対象の語学講座の開催などで、国際交流事業全般で活躍中です。小学校等での韓国語講座や料理教室なども行い、子供の頃から韓国語や韓国文化に触れる機会が整ってきています。

・一般財団法人対馬市国際交流協会

平成一五年四月に旧六町が共同出資して「財団法人対馬国際交流協会」を設立しました（平成二六年四月一日より一般財団法人に移行）。そして、釜山市に「対馬釜山事務所」を開設し、現地職員二名を雇用し運営しています。観光説明会や観光商談会を行うことによって、対馬の魅力を韓国の方々に伝える役割を担っています。添乗員・オペレーター研修会に

よって対馬や日本の正確な歴史・姿を伝える努力をし、他にも「日本歌謡大会」といったイベントの開催や、景勝地めぐりやシーカヤックといった対馬ならではのレジャー体験、茶道・華道など日本の文化を体験してもらうような企画も行われています。

ここで少し言及しておきたいのは「倭館」のことです。「倭館」は、李氏朝鮮（朝鮮王朝）時代、中世から近世にかけて朝鮮半島南部に設置された日本人居留地のことです。文禄・慶長の役以前は複数個所存在していましたが、江戸時代には釜山に限定され、日本側は対馬藩が朝鮮との外交・通商を行っており、館主以下、役人を含め五〇〇人ほどが住んでいたといえます。江戸時代を通じて鎖国の窓として名高い長崎の出島とは反対に、日本から朝鮮に赴いて、それも対馬藩のみのおよそ五〇〇人の者が、広さ一〇万坪を誇る場所で鎖国下に堂々と貿易に従事していたという事実を無視するわけにはいかないでしょう。「倭館」は対馬の朝鮮貿易の拠点として重要な役割を果たし、それが明治六年（一八七二年）二月、新政府が外交権を没収するまで約二〇〇年間にわたって続いていたのです。対馬釜山事務所はこの「倭館」のあった区域内に事務所をかまえ、現在も対馬と釜山、日本と韓国の交流に大きな役割を果たしています。

朝鮮通信使

・対馬の国際交流の起り

朝鮮通信使は日本と韓国の平和遺産です。豊臣秀吉の朝鮮侵略により途絶えていた日朝間の国交を、江戸幕府（徳川家康）が回復しようと対馬藩を仲介役として交渉を重ね、一六〇七年に朝鮮王朝からの使節派遣が実現しました。これが江戸時代の朝鮮通信使のはじまりです。その後、徳川将軍の代わりごとに派遣され、一八一一年までの約二〇〇年間で一二回の来日がありました。このように、江戸時代に朝鮮からの外交使節が日本と友好関係を結んでいたことは、今では教科書にも載り有名になってきましたが、明治期・朝鮮の日本統治時代には日本人も韓国人も一部の学者を除いてほとんど知りませんでした。その忘れ去られた歴史を、朝鮮との窓口として重要な位置を占めていた対馬が復活させようと始まったのが朝鮮通信使行列の再現です。

その歴史は、最初は観光客向けの仮装行列でした。三十七年前（一九七八年）、当時は韓国からの観光客はほとんど来いていない時代で、日本の方々に向けて一番韓国に近い対馬で異国情緒を味わってもらいたいという意味で始められました。それが、三四年前（一九八〇年）に辛基秀先生の映画「江戸時代の朝鮮通信使」をきっかけとして、時代考証を重ね、本物を再現しようという動きに変わってきたのです。地元有志が朝



朝鮮通信使行列の再現

鮮通信使行列振興会を発足するなど、様々な協力によって毎年の厳原港まつりのメインイベントとして再現され、今年で三十七年目を迎えます（ただし、平成二五年は仏像盗難問題で中止、平成二六年は台風の影響で中止、平成二七年は三年ぶりの再現となる）。

・朝鮮通信使縁地連絡協議会

この対馬で行われていた朝鮮通信使行列の再現をもっと日本全国・韓国にも広めたいという想いから組織化されたのが

朝鮮通信使縁地連絡協議会（以下…縁地連）です。初代会長・松原一征氏は、当時の担当職員とともに朝鮮通信使がたどった、杵岐、福岡、下関、上関、福山、牛窓、大阪…と各縁地を訪ね東京まで協議会への加入依頼の行脚をしました。そして、日韓親善友好の歴史的資産である「朝鮮通信使」を支えた「誠信の交隣」を基本姿勢として、二二世紀の「アジア太平洋時代」とりわけ「日韓新時代」の重要性を見据え、一九九五年一月に結成しました（平成二六年にNPO法人へ移行。現在は一八の自治体に加え、四四の民間団体と一二名の個人会員で組織されている）。

朝鮮との交流を考えるうえで欠かせない人物が雨森芳洲です。雨森芳洲は、木下順庵の門下生で、同門の新井白石らとともに木門十哲のひとりに数えられ、政治・教育・学問・芸術など多方面にわたって活躍しました。もとは滋賀県の生まれで、日朝外交の窓口であった対馬藩に仕え、外交交渉に尽力しました。

一九九〇年、韓国の盧泰愚大統領が来日した際の宮中晩餐会で、雨森芳洲と玄徳閔のお話をされたことで、その外交思想に注目が集まりました。自らも朝鮮に渡って学んだ経験のある芳洲は、互いの習慣や文化について学び尊重することが善隣外交を維持する道だとして、「誠信の交隣（互いに欺かず、

争わず、真実をもって交わる）ことこそまことの誠信である」を基本思想としました。この思想は現代の日朝関係においても大切にすべきものとして縁地連の基本姿勢となっています。そして、会長の松原一征氏が、当時釜慶大学の総長であった姜南周（カン・ナムジュ）に呼びかけ、二〇〇三年に朝鮮通信使文化事業会が発足され、韓国でも朝鮮通信使に関する事業が行われるようになりました。二〇一一年には釜山文化財団へ吸収され、二〇一二年に縁地連と協定書を交わしています。日韓共同で平和遺産である朝鮮通信使を普及していく土台が整ったのです。

縁地連の主な活動内容は以下の通りです。

- 一、朝鮮通信使に関連する各種イベントの計画及び開催
- 二、朝鮮通信使に関する史料・史跡の調査、資料収集ならびに研究

三、縁地間での情報交換および文化経済交流

具体的には、まず、「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会」を各縁地で順番に開催し、今年で二二回目を数えます。各地でのイベント参加によって、縁地間の交流を深めています。特に、今年平成二七年は日韓国交正常化五〇周年にあたり、全国交流会以外にも様々なイベントが企画されています。

五月三〇日 日韓友好のつどい（対馬市）ミュージカル「対

馬物語」の公演

九月一九日 日韓交流おまつり(ソウル) 朝鮮通信使行列の

再現

九月一九日 家康公四〇〇年祭(静岡市) 朝鮮通信使行列の

再現

九月二六日 日韓交流おまつり(東京) 朝鮮通信使行列の再

現、韓国アーティストの公演

日韓キャンペーンフェスタ(対馬市 九月頃予定)

韓国大使館主催記念イベント(東京 一〇月下旬〜一月

初旬) ミュージカル「対馬物語」の公演

一二月一四日 第二回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流

会 大垣大会

こういったイベントの内容は、年一回発行する機関誌「縁地連だより」により、参加できなかった会員の方々にも様子が伝わるようにしています。

また、現在第一として取り組んでいるのが、朝鮮通信使のユネスコ記憶遺産登録推進事業です。平成二五年からはじまったこの事業も、平成二七年度(二〇一六年)の登録申請に向け、いよいよ山場を迎えています。この事業は、釜山文化財団とともに日韓共同で取り組んでいます。日韓共同で取り組む意味は以下のようなものです。



ユネスコ推進部会の発足

一、朝鮮通信使は日韓・東アジア・世界平和を志向した平和遺産である

二、多国間の共同申請はユネスコへの申請件数の制限をうけない(一国二件までの制限があるが、ユネスコは多国間登録申請を推奨)

三、平成二七年度は日韓国交正常化五〇周年で、友好関係修復の象徴となる

しかし、対馬の仏像盗難問題はここでも暗い影を落として

います。ユネスコ登録を推進しようという動きの一方で、佛像盗難問題はユネスコの定める文化財の不正輸出入条約に抵触しているという矛盾がおこっている現状です。なんとしてもこの問題を解決したく、韓国側には是正を要請しています（二〇一五年七月、盗まれた二軀のうち一軀が返還された）。

こうした問題がありながらも対馬は交流を継続しています。いろいろな反発もあるのですが、対馬の役割を果たし、対馬の生きる道を模索しながら、対馬の重要性をアピールし続けなければなりません。

おわりに

最後に、三世紀の中国の歴史書 魏志東夷伝倭人伝（魏志倭人伝）の言葉をご紹介します。

『初めて一海を渡る千余里対馬国に至る。居る所絶島、方四百里ばかり。土地は山險しく、森林多く、道路は禽鹿（動物）の径（道）の如し。千余戸有り、良田無く、海物を食して自活し、船に乗りて南北に市糶す（交易する）。』

短い文章で対馬の特色をよく捉えており、古代から対馬が海洋を利用して大陸や九州本土を往来し、物資だけでなく文化を伝えてきた状況が偲ばれます。

地理的にも歴史的にも、これまでもこれから、対馬は国際交流の島なのです。